

[公財] いわて産業振興センター広報誌

産業情報

Industry Information Iwate

いわて

Vol. 219 / 2022
10-11

★キラリ輝く★
★岩手の企業★

宮古市

有限会社クラスタール

世界進出も視野に入れた
岩手メイドのダウンジャケット

各部事業紹介…6・7

賛助会員制度のご案内…8

ILC current topics…8



キラリ輝く
岩手の企業



世界進出も視野に入れた 岩手メイドのダウンジャケット

冬のアウターとして人気の定着したダウンジャケット。有限会社クラスターは、ブームのはるか前から製造に取り組み、今では国内外のトップブランドから注文の入る縫製企業である。念願の自社ブランドも立ち上げた小林晃社長に、ものづくりのこだわりと展望を伺った。

宮古市

有限会社 クラスター



ファッションブランドも注目 国内製造ダウンジャケット

冬のファッションに欠かせないアイテム、ダウンジャケット。そのほとんどは中国やアジアをはじめとする海外で製造されているが、ここ岩手で10年以上にわたって国産のダウンジャケットを作り続

けている縫製メーカーが、宮古市に本社工場をおく有限会社クラスターである。「縫製に手間がかかると他の工場では手掛けなかったのが、うちがたまたま引き受けるようになったんです」

代表取締役の小林晃氏は、自社でのダウンジャケット製造をはじ

めたきっかけをそう振り返る。当時のダウンはアウトドアユースが主流のため購入者も限られており、マーケットも限定的なアイテムとなっていた。しかしユニクロがライトダウンを発売したことによりダウンジャケットは「街着」として利用されることになり、マーケットは一気に拡大していった。それに

1 同社が企画製造した「Hayachine Made」。ダウンウェアとしての見た目、防寒や防水などの機能性を重視して開発した。コラボ商品は山形や福島、滋賀や岡山から沖縄にまで広がる。2 縫製は多くの人の手を必要とする。スタッフの高い技術力が強みだ。3 羽毛を格納するダウンパックを製作。4 メーカーのデータをCADIに落とし込み、オートカッターを稼働する。



ともない、同社には多くのファッションブランドやメーカーから問い合わせが入るように。地道に積み上げてきたダウン製造のノウハウと、何よりその技術力の高さに業界が注目したのである。

顧客の要望に応える技術が 自社ブランドの誕生へ繋がった

ひとくちにダウンジャケットといっても構造は多岐にわたる。たとえば直接羽毛を入れる二層タイプから内側にダウンパックを仕込む四層タイプ、表地と裏地の違い、フード付きや身頃の幅や丈などデ

ザインも多様を極める。それでも「メーカー側の要望に合わせて何度でもサンプルを作ります」と小林社長は断言。着心地や不具合を確かめながら、顧客の要望を満たす製品作りに取り組んできた。そんな取り組みが、結局は技術力や素材知識、製造工程ノウハウなどオンリーワンの強みに結実した。

そんな同社ですら、コロナ禍で業績は大きく落ち込んだ。しかし、そんなピンチをチャンスに変えるべくチャレンジしたのが、長年構想してきた自社ブランドづくり。令和2年にスタートした「イワ

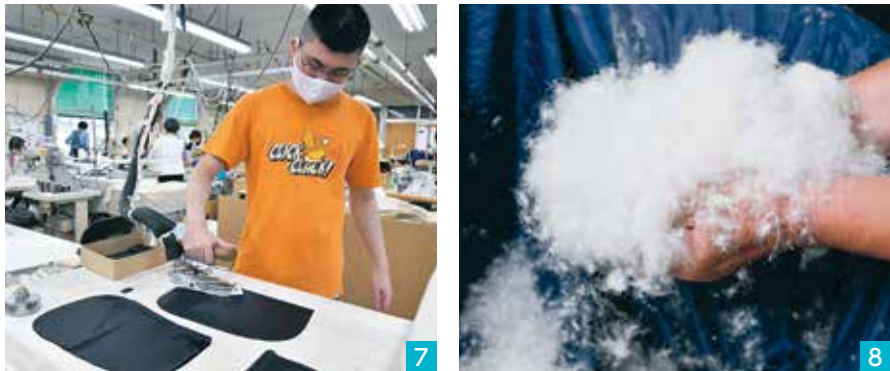
テメイドアパレルプロジェクト」に参加、多くの協力を得てオリジナルブランド「The Authentic Down Jacket」を発表した。これをベースに、全国の伝統工芸の織地やテキスタイルのダウンジャケットを開発する「Hayachine Made」も発表、今や福岡や沖縄にまで取引先が広がっている。

「ザ・岩手」のダウンを 世界へ届ける挑戦が始まる

センターが主催する「いわてアパレル企業ビジネスマッチング商
詳細は5ページ **この事業を活用しました**

談会」でも、新規顧客の獲得を実現。小林社長は「従来の顧客とのコミュニケーションの機会にもなった」と手応えを語る。さらに昨年参加した「IWATE FOOD&CRAFT AWARD」では、見事クラフト部門でのグランプリを受賞、そこで出会った一関の老舗染物店などと共同開発した本染め刺し子ダウンジャケットは「Hayachine Made」を代表するラインとなっている。

国産ダウンジャケットの新たな可能性を切り開いてきた同社。「ゆくゆくは岩手の技術と素材で作った『ザ・岩手』のダウンを海外へも届けたい」と小林社長は展望を語る。その実現は、遠い未来ではなさそうだ。



5 6 7 8 従業員26名のうち女性は22名。沿岸市町村ほか海外からの技能実習生も働いている。
9 量販型のダウンウェアの羽毛が30g～40gなのに対し、同社の製品は150gと3倍以上のボリューム。食肉用に飼育されたダックの副産物を活用し、環境保護と動物愛護の視点にも配慮している。羽毛も撥水加工された700FP(フィルパワー)の高品質ダウンを使用している。

代表メッセージ

取締役 小林 晃氏



追求してきたのは、タウンユースを中心にしながらアウトドアにも対応できるような保温性や機能を兼ね備えたダウンジャケット。「The Authentic Down Jacket」は売り方やストーリーづくりから取り組み、培ってきた高性能や高機能をベースにビジネスユーザーをターゲットに作り上げました。今は各地の伝統工芸の織地とコラボを展開していますが、岩手産の商材を充実させたダウンジャケットを海外へ紹介したい。すでに関係機関との協議も始めています。

代表 Profile

1962年宮古市田老生まれ。85年に同社の前身となる(株)シーガルにて営業を担当したのち89年に(有)クラスターを設立。量販店向けのジャケット、ブラウス等の製造を経て、2009年よりダウンウェアの製造をスタート。2011年には通販生活カタログハウスでのコラボ企画を実現、2020年に自社ブランド「The Authentic Down Jacket」を発表。

企業データ

会社名 有限会社 クラスター
本社 岩手県宮古市千徳第13地割50番地
電話 0193-64-4535
代表者 代表取締役 小林 晃
創業 平成元年3月
従業員 26人
業種 縫製委託製造業
URL <https://hmdown.theshop.jp>

沿革

平成 元年 3月創業 量販店に向けた(ジャケット、ブラウス、ワンピース等)製造
平成 21年 ダウンウェアの製造始める。
平成 23年 主力製造をダウンウェアに切り替える。(半年間)
平成 23年 通販生活カタログハウスでのコラボ企画。
令和 2年 イワテメイドアパレルに参加。オリジナルブランド「Hayachine Made (ハヤチネメイド)」のダウンジャケットを販売開始。

技術
Technology
ポイント
Point

培ってきた製造ノウハウをベースに、メーカーとのミーティングを繰り返しながらサンプル制作から量産化までを手がける体制を構築。サンプル製造は半年以上前からスタートし、メーカーの要望に合わせて素材やディティールの仕様変更にも柔軟に対応。2014年にはものづくり補助金を活用して生地のアートカッターを導入、作業効率もアップした。縫製ラインは身頃やポケット、袖付けなどパーツごとにベテラン従業員が対応、おおよそ1ヶ月で生地の切り出しから出荷までを完了させる。



9 10 アートカッターは平成26年に「ものづくり補助金」を活用して導入。CADデータに基づいて必要な生地の幅や長さを読み取り、バキュームをかけて正確に素早く裁断していく。生地は3cm厚まで対応可能。



この事業を活用しました

「いわてアパレル企業ビジネスマッチング商談会」の開催



岩手県では、本県アパレル関連ものづくり企業と、首都圏等発注企業との取引の拡大・活性化を図るため、令和4年11月9日(水)東京交通会館(東京都千代田区)にてアパレル商談会を開催いたします。

国内縫製工場が減少する厳しい環境の中にあって、「メイド・イン・ジャパン」が改めて注目されております。高い技術を誇る「いわての縫製企業」を知っていただく機会としてご活用下さい。

お問い合わせ 産業支援部 産業人材育成担当 TEL:019-631-3824

「IWATE FOOD&CRAFT AWARD」の開催

県内事業者の商品開発意欲を喚起するとともに、生産技術及び商品力の向上を図り、入賞商品をはじめとする出品商品の販路開拓・商品力の向上を支援するため、「IWATE FOOD&CRAFT AWARD」を開催しております。本コンクールは、フード部門及びクラフト部門があり、入賞特典として、本広報誌での紹介や販売イベント開催の他、グランプリ商品は雑誌掲載を予定しております。

お問い合わせ 産業支援部 地域産業担当 TEL:019-631-3823



「ソフトウェア開発企業 ビジネスマッチング商談会」の開催

岩手県内のIT関連企業における取引を促進するため、「ソフトウェア開発企業ビジネスマッチング商談会」を9月21日に盛岡市で開催しました。

首都圏の発注企業10社、県内の受注企業10社が参加し、自社技術のプレゼンテーションを行う等により取引の拡大に向けた商談を行っていただきました。

またメイン会場では、県内IT関連企業が開発したDX推進ツールのパネル展示を併設し、県内企業の技術力のPRを行いました。

本商談会におけるマッチングをフォローアップするとともに、今後も受発注のマッチング支援を継続してまいります。



■お問い合わせ

取引支援・産業集積担当 TEL:019-631-3822

国際リニアコライダー(ILC)に関する実験・調査の実施

昨年度に引き続き、高エネルギー加速器研究機構(KEK)から業務を受託し、「ILC陽電子源ターゲット直下流部・陽電子捕獲空洞冷却設計の調査・検討」を実施しています。

国際リニアコライダー(ILC)の主要部のひとつである「陽電子源」周辺の部品は高熱にさらされることから、冷却方法について、産学官連携による調査・検討を行うものです。

県内の企業が中心となって実験機器を製作し、実際に実験を行いながら、効率の高い冷却方法について報告する予定です。

実現が期待されるILCに本県の技術が生かされるよう、取り組んでいきます。



R3年度の調査で製作した実験用部品

■お問い合わせ 産学連携室 TEL:019-631-3825

「第3回岩手県の観光と物産展」の開催

8月31日から6日間、名古屋名鉄百貨店において、「第3回岩手県の観光と物産展」を開催しました。

2年ぶりの開催となった今年度は、新規メーカー13社を含め、県内52の事業者が自慢の逸品を出展しました。

海の幸を詰め込んだ海鮮弁当や絶品スイーツ、伝統工芸品など岩手のふるさとの味や魅力あふれる商品を中部地方で販売し、初日のオープンから多くのお客様で会場は賑わいました。



■お問い合わせ

地域産業担当 TEL:019-631-3823

「よろず支援拠点 無料ミニセミナー」のご案内

岩手県よろず支援拠点では、所属コーディネータによるビジネスに役立つ無料ミニセミナーを随時開催しております。売上拡大・経営改善・商品開発・起業・労務管理等、様々な専門性を持つコーディネータのノウハウを皆様にお伝えさせていただきますので、是非ご参加ください。11月開催予定のセミナーは下記になります。

- 11/8 15時～ 対面開催
「コロナ禍の打開!金融機関交渉のポイント」
 - 11/25 13時～ Web開催
「自社で活躍できる人材採用のポイント」
 - 11/29 15時～ Web開催
「外販商品開発&HACCP!よくばりWセミナー」
- ※開催日等変更になる場合がございます。内容等については岩手県よろず支援拠点HPにて確認願います。

■お問い合わせ

岩手県よろず支援拠点 TEL:019-631-3826
mail:yorozu@joho-iwate.or.jp

医療機器の開発・事業化を サポートする地域連携拠点に採択

東北ライフサイエンス・インストルメンツ・クラスター(TOLIC)との連携により申請していた日本医療研究開発機構の医工連携地域連携拠点に採択されました。

本事業では、医療機器ニーズの発掘、シーズとの橋渡しや研究開発体制の構築、臨床・非臨床の各種試験や許認可、保険収載など医療機器特有の手続き等、医療機器の事業化を一体的にサポートする体制を構築します。

医療機器開発や事業化に詳しい人材を新たにコーディネータとして迎え、10月から事業を開始する予定です。



■お問い合わせ

取引支援・産業集積担当 TEL:019-631-3822

令和4年度 競争的研究開発資金2件採択

研究開発プロジェクトの提案に向けた産学官の取組を支援するとともに、採択プロジェクトの管理法人として研究開発及び事業終了後の展開を支援しており、今年度は下記のとおり2件が採択されました。

研究開発に関心のある企業様は、お気軽にお問い合わせ下さい。

●成長型中小企業等研究開発支援事業(経済産業省)

テーマ: Xcentric-EVの開発
～カーボンニュートラルを実現する無給電EVを目指して～(R4～6年度)
研究実施者: ㈱村上商会、一関工業高等専門学校



●いわて戦略的研究開発推進事業(岩手県)

テーマ: 快適な睡眠と記憶力をサポートするイサダオイル粉末素材の開発(R4～5年度)
研究実施者: ㈱國洋、帝京科学大学



■お問い合わせ 産学連携室 TEL:019-631-3825

「食品製造業・縫製業向け DX推進セミナー」の開催

県内企業の生産性向上及び競争力強化に資するDX導入の取組を支援するため、「食品製造業・縫製業向けDX推進セミナー」を9月22日に開催し、56名の方に参加いただきました。

基調講演では県内中小企業におけるDXの取組み状況等を解説し、事例紹介では食品製造業と縫製業におけるDX導入事例等を紹介しました。

当センターでは、DXの活用を検討する企業に対し、専門家派遣等による課題解決に向けた支援を行っておりますので、関心のある企業様は、お気軽にお問い合わせください。



■お問い合わせ

産業人材育成担当 TEL:019-631-3824

「プロフェッショナル人材 戦略拠点」のご案内 ～プロフェッショナル人材(中堅クラス以上)の 採用を支援します!～

専門的な経験を有する人材とのマッチングを支援する「プロフェッショナル人材戦略拠点」事業を実施しております。当センターから一度に45の人材紹介会社に求人情報を提供できるので、より多くの求職者にアピールすることが可能で、何度面接しても、納得いく人材を決定するまで、経費は発生いたしません(決定した人材を採用する際には、費用が発生いたしますので、ご留意願います)。

また、人材を雇用するのではなく、一定期間、業務を委託できる「副業・兼業」人材も対応していますので、お気軽にお問い合わせください。

●正社員

- ・取締役・工場長
- ・PM,PL,管理者
- ・資格保有者(国)
- ・基幹システムのDX

●副業人材(コスト低減!)

- ・WEB,ECサイト,SNS支援
- ・ブランディング・マーケティング強化
- ・就業・給与規定作成

■お問い合わせ

産業人材育成担当 TEL:019-631-3824

賛助会員制度のご案内

当センターでは、センター事業の一層の充実を図り、皆様のニーズに応じた支援を行うことを目的に賛助会員を募集しています。ご支援いただいた賛助会費は、1/2以上を公益目的事業費として県内企業の発展のために活用し、残りをセンターの運営管理費に充当させていただきます。県内企業の皆様のご理解ご協力をお願いいたします。

年会費

一口20,000円

会員特典

- ①「産業情報いわて」定期送付
- ②取引商談会の参加料割引
- ③経営管理者向け研修会の参加料割引
- ④社内研修用DVD貸出

申込URL

<https://www.joho-iwate.or.jp/sanjo>

お問い合わせ

総務金融部 総務企画担当
TEL:019-631-3820

ILC current topics

岩手県ILC推進協議会からのお知らせ

ILCに関連する人材育成の取組について

県内の高校生・高専生の科学に対する興味・関心を深めてもらうための県の取組をご紹介します。

令和4年12月24日(土)に「令和4年度 いわての高校生サイエンス&エンジニアリング・チャレンジコンテスト」をアイーナ(盛岡市)で開催します。参加チームは、物理・化学・工学に関する研究の成果を発表し、1位に輝いたチームには国内の研究施設での研修を用意しています。募集は締め切っていますが、3回目となる今回は多くのチームから応募がありました。当日は、感染防止対策のため一般公開は行いませんが、コンテストの結果はホームページでお知らせします。

令和5年3月4日(土)には、「探究成果オンライン発表会」の開催を予定しています。第1回目となる今回は「地域の国際化」をテーマに、総合的な探究の時間や課外時間の活動での探究成果をオンラインで発表します。応募期限は令和4年11月30日(水)です。詳細は、県ホームページをご覧ください。

また、県では、県内の高校・高専がILCに関連す

る講演会等を開催する場合、講師の派遣・紹介を行っていますの

で、ILC推進局事業推進課までお気軽にご相談ください。



「令和4年度 いわての高校生サイエンス&エンジニアリング・チャレンジコンテスト」の様子

【岩手県HP:探究成果オンライン発表会】

<https://www.pref.iwate.jp/kensei/ilc/1058643.html>

【お問い合わせ先】

岩手県ILC推進局事業推進課
電話：019-629-5203
メール：AB0009@pref.iwate.jp